

朝日新聞社



ともに考え、ともにつくる

朝日新聞

会社案内 2020



ともに考え、ともにつくる



工夫を重ね、挑戦を続ける——。朝日新聞は1879年に大阪で創刊し、明治、大正、昭和、平成、そして令和へと時代が変わる中、そんなベンチャー精神を礎に、日本のジャーナリズムを担い続けてきました。

メディアはいま、「デジタル・ディスラプション」と呼ばれる激変期を迎えています。ITが進歩し、だれもがソーシャルメディアで情報を発信できるようになりました。しかし、ネット空間の一部ではフェイクニュースが拡散し、偏った考えが増幅されるエコーチェンバー、興味のある情報にしか触れられなくなるフィルターバブルといった不健全な現象も起きています。情報の正しさをどう見極め、どう公正に伝えるのか。隠された真実にどう迫るのか。デジタルトランスフォーメーションのうねりの中でも、私たちは報道機関として本物のジャーナリズムを追求し、信頼される情報の担い手であり続けたいと思っています。

「ともに考え、ともにつくる」という企業理念のもと、気候変動や少子高齢化といった社会の課題解決を模索する報道、多様化する価値観やライフスタイルに寄り添う新しい情報サイトの立ち上げ、お客様と直接触れあうリアルイベントの開催にも力を入れています。これに伴い、社員が活躍するフィールドは大きく広がり、既成概念にとらわれない、新しい領域へのチャレンジも始まっています。

「豊かな暮らしに役立つ総合メディア企業」へ。私たちの挑戦は、これからも続きます。

朝日新聞社 代表取締役社長

渡辺雅隆

デジタルファースト

新時代のスクープ 「ゴーン会長逮捕」

2018年11月19日午後5時11分。「ゴーン会長逮捕へ」の速報が朝日新聞デジタルに流れました。東京地検特捜部が日産のカルロス・ゴーン会長（当時）を逮捕するという世界的な大スクープでした。

特捜部が大きな事件をやるうとしている——。記者たちは厳重に保秘された特捜部の動きを察知し、粘り強く取材を重ねました。たどり着いたのが、日本の企業文化を一変させた世界的経営者が逮捕される、という衝撃的な情報でした。取材班は、ゴーン会長がビジネスジェット機に乗って羽田空港に到着するとの情報もキャッチ。係官が機内に乗り込む様子の一部始終を独自取材することに成功しました。



速報の直後、朝日新聞デジタルが報じた記事



羽田空港の動画をつけ、夜にアップした続報

世界のメディアも一斉に報道

「逮捕へ」のスクープは約40分間にわたってデジタル空間を独走し、ジェットの写真や動画も夜のうちに配信しました。世界中のメディアが「日本の朝日新聞によると」と記事を引用して一斉に報じました。

つかんだ事実を一刻も早く読者に伝えることは、報道機関の重要な使命です。そうした思いから、紙面の締め切り時刻にとられない一連のスクープが生み出されました。デジタルファースト時代の報道のあり方を示す画期的な特報です。



ロイターのウェブ記事

The New York Times

Nissan's Chief Held by Japan In Pay Inquiry

Carmaker Says Income Was Underreported

By MOTOYUKI RIEH and JACK EWING
TOKYO — Carlos Ghosn, who created an alliance between Nissan and Renault that made it effectively the world's largest carmaker, was arrested by the authorities in Japan on Monday in a remarkable tumble for one of the industry's most powerful and admired leaders.
Mr. Ghosn, a larger-than-life figure widely hailed for saving Nissan, reviving Renault, and reuniting how automakers could share technologies, was detained after an internal company inquiry found that he had underreported his compensation to the Japanese government for several years.
The alliance, which in 2016 was broadened to include Mitsubishi, accounts for 10.6 million cars sold annually. The arrest of Mr. Ghosn, who is chairman of Nissan, chief executive of Renault and chairman of the board of Mitsubishi, stunned the industry. It comes at an uneasy time: The companies face a slowing economy, a global trade war and a shift toward electric cars.
If the alliance

Carlos Ghosn

ニューヨーク
タイムスの1
面記事



紙の新聞ではスクープ翌日付の朝刊から報じ、続報を展開

報道を支える

新聞協会賞 技術部門で3年連続

朝日新聞の取材拠点と本社を結ぶ「ネットワークインフラの再編～利便性向上と新技術導入への挑戦～」が、2019年度の新聞協会賞（技術部門）を受賞しました。いち早く次世代の通信技術に着目して社内で実験を重ね、動画投稿にストレスがなくなり、総局とのテレビ会議でも滑らかな画面が実現。「ユーザーの利便性向上」と「コスト削減」を同時に実現した先進性が評価されました。幅広い業界で導入可能な技術で、国内の先行事例としても取り上げられています。

技術部門での受賞は3年連続の栄誉です。19年10月にあった贈呈式で、プロジェクトチームを率いた情報技術本部の諏訪部智次長は「まじめにコツコツやるメンバーや、楽天的なメンバー、アイデアマン、心配性のメンバーなどいろ



ネットワークインフラについて議論を重ねるプロジェクトメンバー

んな技術者のアイデアを集めることで目標を実現できた」とあいさつしました。朝日新聞は技術の分野でも未来を見据えてチャレンジしていきます。

18年度、17年度の新聞協会賞 朝日新聞の受賞テーマ

◇18年度

- ・技術部門：編集部門向けデジタル指標分析ツール「Hotaru(ホタル)」の開発
- ・編集部門：財務省による公文書の改ざんをめぐる一連のスクープ

◇17年度

- ・技術部門：ローラ再生装置の開発

パブリックエディター (PE)

社外の方々から寄せられる幅広い声に耳を傾け、日々の報道の改善に生かすため、2015年4月からこの制度を始めました。PEは社外の識者3人と社員1人の計4人。19年度は「ほぼ日の学校」学校長の河野通和さん、エッセイストの小島慶子さん、社会活動家の湯浅誠さん、前編集担当補佐の山之上玲子＝右写真・右から＝が務めています。

読者のご意見や社外の評価などを踏まえ、「読者代表」の立場で朝日新聞の報



東京本社で開いた「社員と語る会」

金成隆一記者にボーン上田賞

優れた報道で国際理解に貢献したジャーナリストに贈られるボーン・上田記念国際記者賞の2018年度の受賞者に、朝日新聞ニューヨーク支局（現東京本社経済部員）の金成（かなり）隆一記者が選ばれました。金成記者は00年入社で、神戸支局、静岡支局、大阪本社社会部などを経て14年9月からニューヨーク支局員。

16年の米大統領選から、「トランプ旋風」の実態を探るためラストベルト（さび付いた工業地帯）などを集中的に取材しました。17年はオハイオ州でアパートを約3カ月借り、「住民目線」で迫ったルポ「トランプ王国 熱狂のあと」を朝日新聞デジタルで連載し、支持者らの微妙な心境の変化をわかりやすく伝えました。



「トランプ集会」で取材する金成隆一記者（左）＝2017年7月、米オハイオ州ヤングスタウン、ランハム裕子撮影



朝日新聞デジタルの「トランプ王国 熱狂のあと」

道内容を点検・評価し、本社側に説明と改善を求めます。年3回程度開く「あすへの報道審議会」ではジェンダー、顔の見える新聞、平和などのテーマを設け、時には読者を交えPEと本社側が議論。読者との茶話会や社員と語る会も随時開いています。

朝日新聞は世界の新聞、テレビ、ラジオのオンブズマンらが加盟する国際組織「ニュースオンブズマン協会 (ONO)」の会員にもなっています。





編集部が開く「かがみ女子会」にはエッセイを投稿する女性たちが集まる。みんな笑顔のこの日のテーマは「失恋」。



「あの子」のために、 社会を変える

「かがみよかがみ」編集長
(総合プロデュース室)

伊藤あかり

2009年入社。奈良、徳島で地方記者を経験し、大阪本社編集センターへ。17年11月から総合プロデュース室員に。ミレニアル女性向け「telling.」の立ち上げから携わる。社内の新規事業創出コンテストに応募し、19年8月から「かがみよかがみ」編集長に。趣味はボールダンス。

入社から約10年間、多くの「読者」に向けて新聞で記事を書いてきました。何百万人に届いている……とはいうものの実感がない。私は誰に向けて書いているのだろう？ というモヤモヤがあり、顔の見える、「あの子」のために記事を届けたい、そう思うようになりました。

私が立ち上げた「かがみよかがみ」は、18～29歳の女性を書いたエッセイが主軸のパーティカル（特化型）メディアです。コンセプトは「私のコンプレックスを、私のアドバンテージにする」。若い女性たち

が書くことを通じて、自己肯定感を爆上げしていくことを目標にしています。

週1回でイベントを開き、ユーザーの女性たちとおしゃべりする機会をつくっています。何に疑問を持っているのか、何を伝えたいのかを聞きながら「かがみよかがみ」ができることは何かを考えています。サイトの裏テーマは「私は変わらない。社会を変える」。周囲に合わせろ、我慢しろという同調圧力のなかで「おかしくないですか」と言える子が増えたらいいなと思っています。

全ての人を満足させようとしたら、1人も熱狂させられない。多くの人にボカーンでも、「あの子」を熱狂させる言葉を届けたい。1人の熱狂から、ムーブメントをつくりたい。

そんな思いで、きょうも私は「あの子」のために「かがみよかがみ」を届けます。



動画ビジネスの世界で、 夢を実現

デジタル・イノベーション本部
山本哲也

2005年入社。製作本部・築地印刷を経て、09年に製作本部・システム部へ。15年4月から自己充実休職を取得し、ニューヨークフィルムアカデミーの映画監督コースに。18年4月に復職し、デジタル・イノベーション本部アライアンス事業部員。サメの観察、グッズ集めが趣味。

大学時代から動画制作が趣味です。テレビ局志望でしたが、縁あって朝日新聞に。最初の職場は印刷工場で、システム部に移っても、動画への愛情は消えませんでした。2011年の東日本大震災で茨城の実家が被災し、「いつ死ぬかわからない。好きなことをやろう」と決心しました。

15年に自己充実休職を取りました。自己啓発や社会貢献などに取り組む社員が最長3年間休める制度。米ニューヨークの映画学校で映画、ドラマ、CM、ドキュメ

ンタリーとさまざまな現場を踏みました。武者修行中に映画監督「Ted Sharks」としてデビューし、いくつかの映画祭で受賞しました。

18年に復職後はニュースサイト「withnews」の動画制作を担当。朝日放送テレビ（ABCテレビ）との協業でYouTubeのチャンネル「#部活 ONE!」を運営し、社の主催・後援事業の映像化も大切な仕事です。

どんな作品を、どんなタイミングで、どのプラットフォームに出し、どうお金を得るか。受注するだけのニューヨークでなかった動画ビジネスが見えるようになりました。

「#部活 ONE!」の登録者は10万人を

突破し、グーグルから銀の記念盾をもらいました。ABCの番組「#部活 ONE! 放送部」のプロデューサーになり、エンドロールで自分の名前が流れます。就活生だったころの夢が、新聞社にしながら実現しました。

情熱のある仲間たちと一緒にもっと面白い動画をつくります。



この一瞬を伝えたい。朝日新聞主催の全日本小中学生ダンスコンクールで、演技を終えた中学生にカメラを向ける。



新しいサービス・ビジネスづくりの実験工房

メディア環境の激変に対応し、2013 年に発足しました。

①新事業創出②ベンチャー投資③ AI などの研究開発を柱に、社内外の「ハブ」の役割を果たしています。

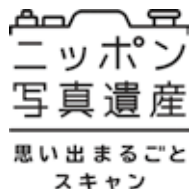


Moovoo + bouncy

未来を感じさせる動画メディア、17 年春スタートの「Moovoo」と、19 年夏に社外からの事業譲受で加わった「bouncy」を一体運営。短い動画を SNS などで拡散し、暮らしをスマートに変えるお手伝いをしています。

ニッポン写真遺産

家庭のアルバムや写真をお預かりしてスキャンし、画像データにするサービスです。18 年春の本格スタートから 1 年半で累計受注 250 万枚を突破。歴史的に貴重な写真、珍しい写真は、お客様に取材して新聞紙面などで随時紹介しています。



STARTUP !

社内の新規事業創出の中核的な制度として、13 年にスタート。優秀提案者はメディアアラボに異動し、すでに 10 件以上が事業化されました。年 1 回だった提案募集を 18 年度から通年に変え、スピード感も高めました。

自然言語処理研究

朝日新聞社が持つ膨大なテキストデータを利用した AI の研究に取り組んでいます。記事本文からさまざまな長さの要約や見出しを自動で生成する「自動要約生成 API」を発表し、その技術は学会でも評価を受けています。



深紅の優勝旗かけた国民的行事 次の 100 年へ

朝日新聞社は 1915 年、若者の健全育成を目的に大阪の豊中グラウンドで第 1 回全国中等学校優勝野球大会を開催しました。第 10 回から甲子園球場に舞台を移し、戦後は日本高等学校野球連盟との共催に。履正社（大阪）が初優勝した 2019 年の第 101 回まで 1 世紀余り。時代を超えて愛される夏の国民的行事です。

56 代表が出場した 18 年の第 100 回記念大会は、総入場者数が初めて 100 万人を突破し、101 万 5 千人を記録しました。戦争など困難を乗り越えてきた大会をさらに発展させ、次の 100 年につなげていきます。



高校野球

A I 戦評記者「おーとりい」

情報技術本部が、AI（人工知能）を活用して高校野球の戦評記事を自動生成する「おーとりい」の開発に成功しました。18 年夏の甲子園で試験的に導入し、19 年夏も朝日新聞デジタルでお届けしました。高校野球報道で蓄積した膨大な記事とデータを学習し、スコアブックの情報を読み取って勝敗のポイントをすばやく書きます。本物の記者の力量に迫る挑戦は続きます。



地方大会、甲子園でライブ中継

朝日放送テレビなどと共同で運営する無料情報サービス「バーチャル高校野球」は 19 年夏、甲子園の全 48 試合のほか、地方大会では全決勝を含む約 900 試合をライブ中継しました。スポーツメディア「SPORTS BULL（スポーツブル）」の協力を得ています。地元の盛り上がりや選手たちの様々なストーリーも楽しめます。





1



2



3



5



4



6



7

明治

- 1879年1月25日 朝日新聞第1号、大阪で発行。4ページ、約3千部を印刷^①。第3号から1部1銭で販売。従業員は20人足らずだった
- 1888年7月10日 東京でも発行開始
- 1890年11月25日 東京朝日が日本新聞界初の輪転機を本格稼働。付録の国会議事録など印刷
- 1904年1月5日 「天声人語」が大阪朝日でスタート
- 1907年4月1日 夏目漱石が入社。「虞美人草」以降「三四郎」「それから」「こゝろ」など小説はすべて朝日新聞に連載した^②
- 1909年3月1日 石川啄木が入社、校正係に。歌人として認められ翌年9月「朝日歌壇」選者に^③

大正

- 1915年8月18日 第1回全国中等学校優勝野球大会^④。24年から甲子園球場が舞台
- 1922年4月2日 「週刊朝日」創刊
- 1922年10月21日 日本の新聞で初めての記事審査部創設

昭和

- 1928年8月27日 東京～大阪間で旅客の有料航空輸送を開始。36年に国策会社に無償譲渡した
- 1929年1月1日 創刊50周年を記念して「朝日賞」を創設。第1回受賞者は坪内逍遙、前田青邨ら
- 1935年11月25日 九州支社に続き、名古屋支社で発行開始。全国紙の態勢が整う
- 1936年2月26日 2・26事件。反乱軍が東京朝日新聞社屋襲撃^⑤
- 1945年11月5日 戦争報道の責任を明確化するため、社長以下の幹部が辞任。7日付朝刊で「国民と共に立たん」宣言
- 1949年12月1日 夕刊でマンガ「サザエさん」の連載開始
- 1952年9月1日 朝日新聞綱領を制定。「言論の自由を貫く」など四つの柱からなる
- 1955年10月1日 南極学術探検事務局を設置。翌年、第1次観測隊が出発^⑥
- 1965年8月21日 ツタンカーメン展を開催。入場総数293万人に^⑦
- 1980年9月23日 東京本社が有楽町から築地の新社屋に移転。コンピューターでの新聞製作開始
- 1987年5月3日 阪神支局が襲撃され、記者1人死亡、1人重傷^⑧。名古屋寮襲撃、東京本社銃撃、静岡支局爆破未遂など警察庁指定116号事件に
- 1988年5月24日 週刊「AERA」創刊
- 1988年6月18日 リクルート関連会社の株譲渡を巡る川崎市助役の疑惑をスクープ。政財官界に広がる調査報道

平成

- 1992年8月22日 東京佐川急便事件をスクープ。自民党の一党支配体制が崩壊に向かう
- 1995年1月17日 阪神・淡路大震災。被災地向けにタブロイド判で情報紙面を週1回発行
- 1995年8月10日 ニュースサイト「アサヒ・コム」開設
- 2002年4月6日 週末版別刷り「be」創刊
- 2002年5月31日 日韓共催サッカーワールドカップ開幕、オフィシャルペーパーに。その後も日本サッカーを支援
- 2008年10月6日 地球規模の話題を取材する「GLOBE」創刊^⑨
- 2010年9月21日 大阪地検特捜部の主任検事が郵便不正事件の押収資料を改ざんしたとスクープ
- 2011年3月11日 東日本大震災^⑩。社説特集「原発ゼロ社会への提言」を掲載し、「プロメテウスの罠」を長期連載
- 2011年5月18日 「朝日新聞デジタル」創刊
- 2013年1月2日 大阪本社が中之島フェスティバルタワーに移転し新聞製作開始
- 2013年5月7日 「ハフィントンポスト日本版」スタート
- 2017年10月1日 「東京銀座朝日ビル」完成
- 2018年3月2日 国有地取引をめぐる財務省の決裁文書が改ざんされた疑いがあるとスクープ^⑪。財務省は事実を認め、関係者を処分
- 2018年8月5日 第100回全国高等学校野球選手権記念大会が開幕
- 令和
2019年5月1日 「令和」スタート^⑫。全国で号外を発行

NHKの大河ドラマ「いだてん」の主役になった田畑政治（1898—1984）は1924年、朝日新聞に入社。政治部記者・部長、編集局次長、戦後は常務を歴任。退社後、64年東京五輪の組織委員会事務総長として活躍。JOC委員長も務めた。

令和 幕開け

天皇陛下の御即位
即位後御見の儀

陛下国民に寄り添い象徴の責務果たす

「サルのんをよろしく、長く勤王会」

森友文書 書き換えの疑い

財務省、問題発覚後か
交渉経緯など複数箇所



8



9



10

イベント

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会

様々な応援イベントを開催

東京2020オリンピック・パラリンピックのパートナーとして、幅広い応援イベントを開催しています。大会ビジョンの一つである「多様性と調和」に共感し、共生社会の理解を推し進めています。障がいのある方もない方も一緒に参加し、オリンピック・パラリンピアンと歩く「ジャパンウォーク」は、これまで全国で9回開催し、2019年6月には福島で地元の小学生約400人が参加しました。11月には国立競技場そばの明治神宮外苑に約5千人が集いました。また本紙パラリンピック・スペシャルナビゲーターの香取慎吾さんは様々なパラ



リンピック競技を体験し、紙面を通じて大会の盛り上げに協力してもらっています。

大会本番まであとわずか、盛り上げにつなげる取り組みを進めています。



朝日新聞



東京2020 オフィシャル新聞パートナー

朝日新聞社は東京2020を応援しています

サッカー、バスケットボールを応援

代表から小学生まで幅広く

多くの人がプレーや観戦を楽しんでいるサッカーとバスケットボール。朝日新聞社は2つの競技を、サポーターカンパニーなどの立場で後押ししています。日本代表やプロのJリーグ、Bリーグを応援するほか、社会人、大学生から小学生まで、さまざまな世代のみなさんが参加する大会を主催・後援しています。



© JFA/ キリンチャレンジカップ2019
対エルサルバドル代表戦先発メンバー (2019.6.9)

「クリムト展」など魅力ある文化催事

2019年には、19世紀末ウィーンを代表する画家グスタフ・クリムトの没後100年を記念する回顧展を開催。初期から「黄金様式」時代の代表作、甘美な女性像や風景画まで、日本で過去最多となる25点以上の油彩画を紹介しました。英・コートールド美術館のコレクションを紹介する展覧会には、マネやルノワール、セザンヌ、ゴーガンなど印象派の巨匠たちの傑作が集結。東京・国立科学博物館の「恐竜博2019」には、北海道で骨格の約8割が発掘され、大きなニュースとなった大型恐竜「むかわ竜」の化石も登場し、67万人を超える来場者でにぎわいました。このほか、フィンランドの芸術家トーベ・ヤンソンの「ムーミン展」や、新海誠監督の最新映画「天気の子」の公開記念展など、多彩な催事を展開しました。



「クリムト展」広報メインビジュアルにも起用されたグスタフ・クリムト「ユディット」



「恐竜博2019」で世界初公開されたディノケイルスの全身復元骨格

1世紀近く表彰の朝日賞

朝日新聞社の表彰事業を代表する朝日賞は1929年に創設し、学術、芸術などで傑出した業績を残した個人・団体に贈られます。大村智さん、本庶佑さんら、多くの受賞者がのちにノーベル賞や文化勲章に輝いています。2018年度はローマ法研究者の木庭顕さん、映画監督の是枝裕和さん、NTTフェローの岡本龍明さん、理化学研究所主任研究員の平野達也さんが受賞。手塚治虫文化賞、朝日スポーツ賞、大佛次郎賞・大佛次郎論壇賞、朝日広告賞、木村伊兵衛写真賞なども主催しています。



2018年度の朝日賞などを受賞したみなさん



©手塚プロダクション
主催：朝日新聞社

販売

新聞社の生命線ともいえる宅配・販売網は、朝日新聞サービスアンカー（ASA）が支えています。販売部門は全国のASAと連携し、朝日新聞のファンを増やす戦略のかじ取り役を担っています。地域密着の強みを生かし、新しい手法も取り入れて、世代を超えてサポートします。

ASA・地域に欠かせない存在に

朝日新聞の読者の方々に最も身近な存在が、日々の配達を担うASAです。「アンカー」には、リレーの「最終走者」と、「船の碇（いかり）」という二つの意味を込めています。

各地の記者から本社に集まった原稿は、「新聞」に編集されて工場で刷り上がり、トラックで全国約4千店のASAへと運ばれます。このバトンを最後に受け取り、戸別に配達するのがASAで働くスタッフたちです。

最近では、新聞だけでなく牛乳配達や宅配もするASAや、読者の要望に応じて買い物代行やエアコンクリーニングをす

る「まごころサポート」事業を手がけるASAが増えています。船が港におろす碇のように、地元しっかりと根ざし、地域になくしてはならない存在をめざしています。



多彩なイベント、サービスで学生を全力支援

学生のみなさんを支援するさまざまなイベントやサービスを企画、運営しています。ひとり暮らしの方には、通常よりお得な学割価格で朝夕刊をお届けします。



就活生向けの「朝日就職フェア」や、学生読者向けの「学割☆フェス」といったイベントでは、文章力や表現力を高める新聞活用術を提案します。AIが毎日、朝日新聞の紙面から時事クイズを出題するサービス「Qrich（キューリッチ）」も展開しています。

学生読者の声をもとに紙面PR冊子「iROHA」を創刊し、「人気企業に内定した先輩たちの大学生活Q & A」や「目的別のおすすめ記事紹介」などを掲載しました。大学生協や学生の多いASAなどで無料配布し、ウェブにもアップしています。



メディアビジネス

メディアビジネス部門（旧・広告部門）は高い企画力やコンテンツ制作力を駆使し、さまざまなニーズに応えています。紙面のほか、動画も含めたデジタルや、リアルイベントが中心の読者コミュニティなど、話題を呼ぶプロジェクトを展開しています。

「築地場外市場」広報プロジェクト

東京都中央卸売市場・築地市場が豊洲に移転した後も存続する「築地場外市場」の広報プロジェクトを2018年に展開しました。実行委員会を発足させ、キリンビールなどが協賛。今後の名称を決める「TKJ総選挙」、タブロイド判「築地新聞」、築地場外市場の店主たちが登場するウェブ動画「築技×一番搾り」と、多彩な挑戦を重ねました。ニュース性があり、築地ファンの共感を生むプロジェクトとして注目を集めました。



「# ようこそサンタ キャンペーン」企画



Netflixの映画「クリスマス・クロニクル」のキャンペーンで2018年12月、クロスメディア企画を実施しました。「サンタを信じるすべての人に」をキャッチコピーに、朝日新聞東京本社屋上のヘリポートのほか、種子島、富士山のふもとなど各地に出現させた“謎のサイン”を本社所有のヘリコプター、ドローンで空撮し、号外風の新聞広告やCMを制作。大掛かりな企画に多くの反響がありました。



次世代へ

朝日新聞EduAスタート

新しい大学入試はどうなる？ 高校選びは？ 中学受験をする？ しない？ 習い事は？——。2020年の教育改革に合わせ、学齢期の子どもを持つ保護者の迷いや悩みをともに考え、役に立つ教育情報をお届けしよう。19年春、「朝日新聞EduA（エデュア）」が発足しました。ウェブサイトとタブロイド紙（第2、第4日曜付朝刊、一部地域をのぞく）を展開しています。学帽と書物をかたどったロゴが目印です。

編集部員には母親や父親も多く、日々の子育てで感じる思いや迷いを企画に生かしています。「英語の習得法」「AO推薦入試のいま」「理系脳の育て方」などの特集のほか、著名人が高校時代を追想する「ハイスクールラブソニー」などの企画物も。

新聞を活用した学習法も人気で、保護者世代と新聞をつなぐ役割も担っています。



未来ある学生たちの活動を後押し

全国の高校生や高専生による科学技術の自由研究コンテスト「高校生科学技術チャレンジ」（JSEC）をテレビ朝日とともに主催しています。上位入賞者を毎年、アメリカで開かれる国際大会に派遣。自発的に課題を見つけて研究する若い人材を応援し、解決力、展開力、国際競争力の成長をサポートします。

大学生らを対象に、就活に役立つ最新ニュースや企業の採用情報を配信するサイト「あさがくナビ 就活ニュースペーパー」を運営するほか、業界情報誌の発行や文章講座など、キャリア教育もいろんな形で展開しています。

合唱と吹奏楽でライブビューイング

全日本合唱連盟とともに「全日本合唱コンクール」「全日本おかあさんコーラス」、全日本吹奏楽連盟とともに「全日本吹奏楽コンクール」「全日本マーチングコンテスト」「全日本アンサンブルコンテスト」を主催しています。合唱と吹奏楽の全日本コンクールでは、イオンエンターテイメント、ギャガとともに、全国の映画館で中継上映する「ライブビューイング」を実施し、人気を集めています。

子どものための職業体験型テーマパーク「キッザニア東京」（東



京）と「キッザニア甲子園」（兵庫）にも出展。新聞社バビリオンで記者やカメラマンの仕事を体験できます。

NIE（教育に新聞を）

未来の読者を育てるNIE（Newspaper in Education）の活動に力を入れています。社員が学校を訪問し、新聞の読み方、記者の仕事、ニュースの背景、メディアリテラシーなどをテーマに「新聞出前授業」を実施。先生向けに「新聞授業ガイドブック」も発行しています。

教育特集の冊子「知る原爆」「知る沖縄戦」をつくり、「知る水俣病」も仲間入り。いずれも希望する学校に無料でお送りしています。



出前授業で新聞を読む高校生たち

SDGs

SDGsに先駆的な取り組み

朝日新聞社はグループ企業や関連団体とともに、社会課題の解決に向けた様々な活動に先駆的に取り組んできました。2004年、日本メディアで初めて国連グローバルコンパクトに参加。18年にはSDGs（持続可能な開発目標）の推進を呼びかける国連の「SDG メディア・コンパクト」にも創設メンバーとして加わりました。

紙面では17年から「2030 SDGs で変える」と題し、キャスターの国谷裕子さんをナビゲーターに迎えてSDGsの各目標を掘り下げる企画の掲載を続けています。記者や専門家とひざを交えるカフェや新聞記事を使ったグループ

ワークによるSDGs授業を通じて、地球環境の激変と向き合うことになる若者世代とSDGsが目標とする30年以降の世界も見据えて「ともに考えていく」ことに力を入れています。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



朝日地球会議

朝日新聞社は毎年秋に国際シンポジウム「朝日地球会議」を開いています。2019年のテーマは「ひらかれた社会へ多様性がはぐくむ持続可能な未来」でした。

SDGsへの道筋をどう描くか、深刻化する気候変動、人工知能（AI）やビッグデータの民主主義への影響、働き方、ジェンダー、海洋プラスチック問題、フードロス対策などを3日間にわたり、話し

合いました。3日間でのべ5千人が参加し、国内外から招いた政治、経済、科学技術分野などの有識者やオピニオンリーダーと、解決策をともに考えました。



ランドマーク

大阪・フェスティバルシティ

大阪・中之島のツインタワー「フェスティバルシティ」は朝日新聞大阪本社や音楽の殿堂「フェスティバルホール」がある東棟（2012年完成）、大阪を代表するラグジュアリーホテルのコンラッド大阪や中之島香雪美術館を擁する西棟（17年完成）からなります。両棟の低層部や地下街に広がる商業フロア「フェスティバルプラザ」では多様な飲食・物販店舗を楽しんでいただけます。中之島は朝日新聞社が1879年の創刊直後から拠



点を置く「創業の地」。フェスティバルシティは、オフィスフロアで働く約1万3千人のほか、訪れるお客様に心豊かな生活を楽しんでいただける、大阪の新たなランドマークとなりました。

東京銀座朝日ビルディング

朝日新聞社が東京進出当時の拠点としたのが銀座・並木通りです。17年、この地に東京銀座朝日ビルディングが完成しました。低層部にラグジュアリーショ

ップ、3階からはハイアットホテルグループがアジアで初めて提供するライフスタイルホテル「ハイアットセントリック 銀座 東京」(164室)が入り、並木通りに新たな表情を加えました。



さっぽろ創世スクエア

札幌では18年5月、朝日新聞社が参画する「さっぽろ創世スクエア」が完成。札幌市や系列放送局・北海道テレビ放送（HTB）など8者による、札幌のまちづくりをリードするプロジェクトです。オフィス棟には北海道支社が入居し、賃貸事業も進めています。HTBとの「協業」にも力を入れ、新たなメディアビジネスにチャレンジしています。

2030プロジェクト



社外の20代若手と「メディアやニュースの選び方」などをテーマに議論するメンバーたち
＝19年7月、東京・神宮前

10年後に向け、30代社員が提案

若手社員が10年後のメディアと朝日新聞社の立ち位置を想定し、今後はどこに焦点を当てて何をやっていくべきなのかを渡辺雅隆社長ら経営陣に提言する「2030プロジェクト」。編集、ビジネス、技術の各部門から30代の20人余りが選抜され、19年5月から半年間のプロジェクトとして進められました。

セッションをした相手はNHK、テレビ朝日、講談社、博報堂DYメディアパートナー

ズといったメディア業界のほか、トヨタ自動車、日本航空、凸版印刷、キリンホールディングスといった異業種も。高校・大学生、新社会人など社外の10～20代の若者たちともディスカッションを重ねました。

10月末、3チームに分かれて渡辺社長や取締役会メンバーらを前にプレゼンし、報告書を提案しました。

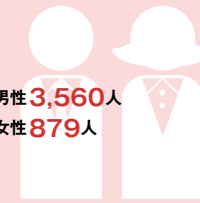


メンバーが参加した泊まり込み合宿＝19年6月、東京・晴海

数字で見る朝日新聞社

〔社員〕

4,439人
男性3,560人
女性879人



〔女性管理職比率〕
12.0%

〔在宅勤務利用者〕

162人
男性84人
女性78人

〔結婚休暇取得者〕

56人※
同性パートナーシップにも適用



〔自己充実休職利用者〕

12人



〔育児休業利用者〕

39人※
男性8人 女性31人



〔過去の復職率〕

100%

〔介護休業利用者〕

2人※
男性1人 女性1人



〔過去の復職率〕

100%

〔所有航空機〕

小型ジェット
1機



本社機「あすか」

ヘリコプター
4機



本社ヘリ「あかつき」

〔印刷拠点〕

全国**27**カ所

〔本社・工場 見学者〕

約**85,000**人※



社内見学する小学生



東京本社

19年9月現在 ※は18年度



「子育てサポート企業」として、厚生労働省から「プラチナくるみん」の認定を受けました。女性の活躍を推進する企業として「えるぼし」も取得しています。また、経済産業省の「健康経営優良法人2019～ホワイト500～」に2年連続で認定されました。

会社情報

〔会社名〕株式会社朝日新聞社	〔売上高〕2,454 億 8,200 万円 (2019 年 3 月期)
〔社主〕村山 美知子	〔所在地〕東京本社 〒104-8011 東京都中央区築地 5-3-2
〔代表者〕代表取締役社長 渡辺 雅隆	大阪本社 〒530-8211 大阪市北区中之島 2-3-18
〔資本金〕6 億 5,000 万円	西部本社 〒803-8586 北九州市小倉北区室町 1-1-1
〔創刊〕1879 (明治 12) 年 1 月 25 日	名古屋本社 〒460-8488 名古屋市中区栄 1-3-3
〔事業内容〕日刊新聞の発行ほか	北海道支社 〒060-8602 札幌市中央区北一条西 1-6 さっぽろ創世スクエア 9 階
	福岡本部 〒812-8511 福岡市博多区博多駅前 2-1-1

国内外の取材網 計288拠点 (2019年8月現在)

国内
44総局・210支局

海外
5総局・29支局



グループ企業・関連団体

新聞・出版・WEB

- 朝日学生新聞社 ●朝日新聞メディアプロダクション
- アサヒ・ファミリー・ニュース社 ●日刊スポーツ新聞社
- 日刊スポーツ新聞西日本 ●北海道日刊スポーツ新聞社
- 朝日新聞出版 ●朝日インタラクティブ
- ザ・ハフィントン・ポスト・ジャパン ●サムライト

文化

- 朝日カルチャーセンター (札幌、新宿、立川、横浜、湘南、千葉、名古屋、中之島、くずは、京都、芦屋、川西、北九州、福岡の各教室)

広告

- 朝日広告社 ●朝日エージェンシー ●朝日アドテック
- 関東朝日広告社 (宇都宮) ●東日本朝日広告社 (仙台)
- 三和広告社 ●朝日エリア・アド (大阪) ●大阪朝日広告社
- 朝日広告社 (小倉) ●中部朝日広告 (名古屋)

広告クリエイティブ・イベント

- ディー・イー・シー・マネージメントオフィス

折込広告

- 朝日オリコミ (東京) ●朝日オリコミ大阪 ●朝日オリコミ西部 (福岡)
- 朝日オリコミ名古屋 ●朝日サービス (札幌)

印刷・発送

- 朝日プリンテック ●日刊スポーツPRESS
- トッパンメディアプリンテック東京
- トッパンメディアプリンテック関西 ●朝日産業
- 北海道日刊スポーツ印刷社

販売関連・即売

- 朝日新聞販売サービス ●朝日トップス
- 朝日販売サービスセンター (大阪)
- 朝日販売サービス (福岡)
- 朝日サポートセンター (名古屋) ●新販 (大阪)

令和初の芥川賞

2019 年 7 月、第 161 回芥川賞に今村夏子さんの「むらさきのスカートの女」が選ばれました。朝日新聞出版の刊行作品が芥川賞に輝いたのは初めてです。

海外

- 朝日新聞アメリカ社 (ニューヨーク)
- 朝日新聞アジア (シンガポール)

不動産・ビル管理

- 朝日ビルディング ●朝日建物管理
- 有楽町センタービル管理 ●千里朝日阪急ビル管理

業務支援・人材サービス

- 朝日新聞総合サービス

その他

- 宮本商行 ●朝日エアポートサービス
- 朝日メディアラボベンチャーズ

放送

- テレビ朝日ホールディングス ●北海道テレビ放送
- 名古屋テレビ放送 ●朝日放送グループホールディングス
- 九州朝日放送 ●青森朝日放送 ●岩手朝日テレビ
- 秋田朝日放送 ●東日本放送 ●山形テレビ ●福島放送
- 新潟テレビ21 ●長野朝日放送 ●静岡朝日テレビ
- 北陸朝日放送 ●広島ホームテレビ ●山口朝日放送
- 瀬戸内海放送 ●愛媛朝日テレビ ●長崎文化放送
- 熊本朝日放送 ●大分朝日放送 ●鹿児島放送
- 琉球朝日放送 ●ビーエス朝日

関連団体

- 森林文化協会 ●こどもの国協会
- ベルマーク教育助成財団 ●ウェブベルマーク協会
- 日本対がん協会 ●朝日新聞文化財団
- 朝日新聞厚生文化事業団 ●全日本写真連盟

朝日新聞綱領

一、不偏不党の地に立って言論の自由を貫き、
民主国家の完成と世界平和の確立に寄与す。

一、正義人道に基いて国民の幸福に献身し、
一切の不法と暴力を排して腐敗と闘う。

一、真実を公正敏速に報道し、
評論は進歩的精神を持してその中正を期す。

一、常に寛容の心を忘れず、
品位と責任を重んじ、
清新にして重厚の風をたつとぶ。

1952年制定

朝日新聞環境憲章

〈基本理念〉

21 世紀を迎えて、ますます全人類的な課題となる環境・資源問題に対し、朝日新聞社は、これまでの姿勢、取り組みをさらに強め、国民の意識を先取りした環境先進企業となるべく、全社をあげて環境改善に努める。

〈基本方針〉

1. 事業活動によって発生する様々な廃棄物などの再資源化をより一層進める。
2. エネルギー利用をさらに効率化し、環境への負荷を低減する。
3. 環境関連の諸法令や自治体条例の順守にとどまらず、これらの先を行く努力をする。
4. 社内広報や啓蒙活動を通して、社員一人ひとりの自覚を高め、日常の行動に反映させる。

2001年1月1日

〔発行〕朝日新聞社 CSR推進部
<https://www.asahi.com/corporate/>

デザイン FROG KING STUDIO
印刷 大日本印刷株式会社

